

2020年度審判講習会

2020年2月28日

YouTube配信による講習



(公社) 日本ライフル射撃協会
競技運営委員会

本日の内容

1. 2021 ISSFルールの改定について
2. 規程集・ルールブックの修正について
3. 間違いやすいルールの解釈
4. 競技会報告書について（再々確認）
5. その他
6. ルール講習会（講師：岡田亜美さん）
 - ・新競技（MIX、団体競技）について
 - ・ルール講義

2021 ISSFルールの改定について

ルール変更 詳細は協会HPにアップします

1.アンチドーピングレギュレーションがアンチドーピングルールとして改称され
内容も大幅に改定された（詳細説明は省略）

2.GTR（ゼネラルテクニカルルール）の変更

6.6.3.1 公式練習 **公式到着日に公式練習日**を設定しなければならない。



改定前は公式到着日翌日に公式練習日だった
理由：競技日程の短縮化

6.6.6.1 50m種目の本選

全ての50m種目において選手数が射座数を超える場合、
射座割は抽選により2射群以上に分けなければならない。



予選が無くなった
理由：上記同様日程短縮化

これにより6.6.3.2 競技前練習（PET）の記述から予選の文言が削除された

新種目の追加

1. 団体戦 3人団体 本選2部&メダルマッチ（ファイナル）
ライフル：A R 男女、3姿勢男女 計4種目
ピストル：A P 男女、R F P 男子、S P 女子 計4種目
2. M I Xチーム 男女2名 本選2部&メダルマッチ（ファイナル）
ライフル：A R（従来通り）、3姿勢 計2種目
ピストル：A P（従来通り）、R F P 計2種目

詳細は後のパートで説明があります。

協会として、この新種目の競技会は2021年度では計画がありません。
今後のI S S FやA S Cの動向を見ながら2022年度以降で計画する予定です。

規程集の改定・ルールブックの修正について

規則集第1巻 規程の改定について

11月末のガバナンスコード（GC）適合性審査委員会予備調査チームとの打合せで
＜組織運営等に必要な規程を整備すべきである＞という項目で
〔審判員の公平かつ合理的な選考に関する規程を整備すること〕とあり

「日ラの公認審判員規程はどうしたら審判員になれるのかは定めているが、大会ごとに誰がどの基準でどのように承認、派遣するのかの記載がない。規程を整備してほしい」

という要請に応じて次ページ以降の規程に追加した。

ジュリー制度及びテクニカルデレゲート設置規程（改訂2021年2月28日）

第5条 派遣される大会及び種目

派遣される大会は、全日本選手権大会、東西日本選手権大会および公認競技会の格付け規程で派遣が必要とされるグレードの大会（**G 1、G 2、G3+**）とする。

派遣にあたって、競技運営委員会は年初の競技会実施要項作成段階で、競技会主管団体と派遣するTDについて協議の上、実施要項に記載する。この実施要綱は、毎年2月開催の理事会で審議され、TDについても派遣の可否が審議される。派遣が決定したTDは、競技会実施前に主管団体と協議し、必要な審判員の配置案を作成の上、競技会実施2週間前までに競技運営委員会に審判員配置計画を提出し、競技運営委員会の承認を得ることとする。なお、国民体育大会にあっては、国体委員会による役員案の審議を行い、理事会で承認を得るものとする。

ただし、全日本選手権大会のうち、TDが派遣される大会はオリンピック種目を実施する大会とする。

赤字部分が追加

公認競技会の格付規程（20210228改訂施行）

（グレードと競技運営体制について）

第6条 4. グレード3ならびにグレード4の競技会の審判員については、各加盟団体の責任においてこの規程に定められた審判員を配置し、段級受験があった際には審判員配置表を添付した競技会報告書で競技運営委員会に報告するものとする。

競技会グレードに応じた審判員の配置に関する規程の変更

公認競技会の格付規程

審判員の配置

配置が必要な**専任審判員**の人数 専任＝選手と兼務不可の審判員

現行

G1 8名 G2 (G3+) 6名 G3 3名 G4 1名

改定

G1 8名 G2 (G3+) **4名** G3 **2名** G4 1名

注6) リモート大会では本部と各会場とで役員を分担して上記の役員配置を行うこと。
TDとチーフジュリーオブアピールは本部、その他役員は各会場ごとに配置するのが望ましい。

規則集第2巻の修正について

6.2.4 安全性の追加要求

- 6.2.4.1 (前略) 空撃ち、照準練習は射撃線または指定された場所でのみ
このルールに従って許可される。(規則集第2巻) 書籍



協会HPのルールでは「**次のルール**」になっている
英文「with these rules」→**このルール**が正しい

6.6.5 射座割表

- a) ライフルおよびピストル種目の射座割表は各種目の
競技前練習の行われる**前日の16:00**までには発表され、
配布されていなければならない。

- 6.8.13 ジュリーはISSFルールに規程されていないあらゆる問題に対して
裁定を下さなければならない。
(漏れ追加) **その裁定は、ルールの精神と意図の中で行われなければ
ならない。**



英文 Such decisions must be made within the spirit and
intent of ISSF Rules.

ナンバリング漏れ

- 6.13.2.1 許容できる故障
- 6.13.2.2 許容できない故障

間違いやすいルールの解釈

6.11.1 10mおよび50mライフルとピストル種目のルール

6.11.1.1 準備および試射時間

f) 射場長が選手を射座に呼び寄せた後は (After the Chief Range Officer calls athletes to the line)
準備および試射時間前であっても、選手は射撃線において銃を取り扱い、**据銃、照準、空撃ち** (空撃ちのために**セフティフラッグを外すことができる**) **をすることができる。**



ATL(athletes to the line)の後は、セフティフラッグを抜いて据銃・空撃ちができる。ただし準備および試射時間前にエアの放出をすると1回目は警告、2回目以降は1回につき2点のペナルティ (6.11.2.1)



25mピストルではプレパレーションタイム時に据銃・空撃ちができる (8.7.6.1)

事前にお寄せいただいた質問事項への回答

1. 50m予選廃止の実施時期はいつから？

回答：21年度（4月以降）から実施します

概ね、国内では50mの予選は行わず複数回転の本選記録で順位付けされていると思います。

全日本選手権では、参加者が多い場合は複数の予選射群を作り予選の結果で、本選通過者をルールに基づき選出し、本選とファイナルを実施しています。

21年度からは、予選無しで直接本選、本選順位でファイナル進出者を決定することといたします。

2. 競技会報告書の紙標的の写真はどのようなのが良い？

協会公認マークが写真を見て分かるようでしたら、どのような写真でも大丈夫です。1名分の標的1枚の写真で結構です。

- ・ 試合開始前の選手配布前の写真
 - ・ 試合受付時に選手に渡している写真（公認マークが見えるように）
 - ・ 試合後、採点終了後に撮った写真
- など。

写真の使い回しはやめてください。毎回撮影をお願いします。

今後競技会報告書の提出方法を電子化する方向で検討中です。その際は、ランダムチェックで現物を送っていただくことを検討しています。詳細は実施時に改めてお伝えいたします・

3. ワールドカップ等国際大会では、競技に直接影響のない禁止事項は注意されないのに、国内大会では細かく注意され選手が委縮する。ルールをしっかりと伝えてもらいたい。

例えば：ライフルスタンドの高さは選手が立射の姿勢を取った時の肩の高さまで。



目的：オリンピック等カメラが選手の前から撮影した際にスタンドが顔を遮るのを防ぐため



テレビ等が入らない国内試合でこのルールで選手を注意するのはナンセンス。NT選手ならともかくジュニア選手であれば大目に見ても良いのでは？

我々審判員の役目は何か？

- ・ 競技を円滑に運営する
競技会場の準備とチェック、競技会運営
- ・ ルールの精神に基づいた判断をする
ルールの精神 = なぜそのルールが定められているのか？
①安全性②公平性③観客アピール
④競技会運営効率 等々
- ・ 競技結果を正確に報告する
試合参加実績、ランキング、段級

選手が快適な環境下で、自分の持つ競技力を十分に発揮し、
良い成績が出せるように補佐する

競技会報告書について（再々確認）

競技会報告に必要な書類

前提：G3、G4の競技会で段級受験のない場合は報告不要です。

1. 競技会実施報告書（様式1）
2. 日本記録・国内最高記録報告書（様式2）
G3+大会以上 記録がなければ提出不要
3. 段級受験報告書（様式3）
4. 競技運営状況報告（様式4）→**紙標的で実施の場合に写真添付**
5. 審判員配置状況
6. TD意見書
7. BR/BPチェックリスト
8. TD審判評価表



射場公認証、電子標的公認証などの写真は不要です

協会HPの「各種手続き」のところに「書式ダウンロード」があり、そこに「競技会実施報告書（様式1～4・TD意見書）」「審判員配置状況」「BRBP射場チェックリスト」「TD審判評価表」があります。これを使ってください。

必要書類一覧

グレード	様式1	様式2	様式3	様式4	TD意見書	審判員配置表	BRBP射場 チェック リスト ★	審判員評価表
	競技会報告書	日本記録 国内最高記録 報告書 記録が出たら 必要	段級受験報告書	競技運営状況 報告				
G1	●	●	●	●	●	●	●	●
G2	●	●	●	●	●	●	●	●
G3+	●	●	●	●	●	●	●	●
G3(段級受験あり)	●	-	●	●	●	●	●	-
G4(段級受験あり)	●	-	●	●	●	●	●	-


★注：BRBPチェックリストは日ラ公認射撃場でチームの公認射場証を取得している射撃場は不要です。

紙標的を使用した競技会の場合は、公認紙標的を使用したことが分かる写真の添付が必要です。


その他

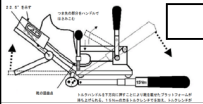

競技会後検査（PCC）について

コロナ禍の中、**検査項目を絞り込んで**検査時間の短縮と検査会場の密な状態を避けるため、以下の通告用紙を作成しましたので、ご活用ください。
(協会HPにアップします)

 競技会後検査通告用紙
Post Competition Check
ライフル用

種目 _____
日付 _____ 射群 _____

 固さ
 厚さ
 オーバーラップ

 
テーピングチェック


射座番号 ゼッケンNo.

選手氏名 (所属) ()


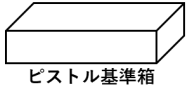
用具検査係 _____
用具検査ジュリー _____

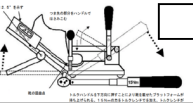
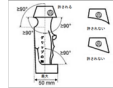
← ライフル用

ピストル用 →

 競技会後検査通告用紙
Post Competition Check
ピストル用

種目 _____
日付 _____ 射群 _____

 トリガー重さ

ピストル基準箱

 
グリップ形状
テーピングチェック

射座番号 ゼッケンNo.

選手氏名 (所属) ()

用具検査係 _____
用具検査ジュリー _____

空撃ちができるエリアの確保

6.4.2 全般および運営上の設備

次の設備が設置されているかまたは射撃場の近くになければならない。

- g) すべてのライフル、ピストルおよびショットガン射場に**空撃ちまたはウオームアップ**のための場所

6.2.4 安全性の追加要求

- 6.2.4.1 (前略) 空撃ち、照準練習は**射撃線または指定された場所**でのみこのルールに従って許可される。

国内では、射撃線以外の場所での空撃ちは厳しいので、空き射座に空撃ちスペースを設けるなどの対応をお願いいたします。→TDの射場チェックリストに項目を追加します。

照度計を貸出します



射撃場の照度検査用に照度計を貸出します

希望の加盟団体は協会HPの機材貸出申込書で申し込んでください

ルール講習会

講師：岡田亜美さん

講師紹介：

岡田さんは、ISSF国際審判員として海外での審判経験があり、2020年12月と2021年1月のアジア連盟主催のリモートでの新ルール講習会に日本代表として参加されており、今回の新ルール説明の適任者ですので、お願いしております。

ご質問・ご意見がありましたら、
以下のメールアドレスにお寄せください

(公社) 日本ライフル射撃協会

rifle@japan-sports.or.jp